

# 米づくり情報（NO. 5）

令和4年7月14日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

## 1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
6月	4	22.4	25.0	26.8	29.4	19.0	21.8	67.9	0.5	19.6	34.5
	5	23.1	25.4	27.1	28.1	20.0	23.3	85.9	95.0	16.0	5.7
	6	24.0	28.4	27.7	32.1	21.1	25.6	95.6	3.5	14.1	35.3
7月	1	24.8	27.4	28.4	31.7	22.0	24.4	97.6	9.0	15.6	26.0
	2	25.5	27.8	29.2	32.0	22.6	24.6	84.3	3.0	19.2	36.1
	3	26.1	—	30.0	—	23.1	—	59.0	—	23.5	—
	4	26.7	—	30.9	—	23.5	—	42.4	—	28.3	—

【7月1半旬～7月2半旬の気象概況】

- ・気温は、平年と比較し2～3℃程度高く推移した。
- ・日照時間は、平年より多く推移した。
- ・降水量は、6月6半旬以降の合計が15.5mmと非常に少なく、今後の天候次第では用水不足となることが懸念される。

## 2 生育状況（7月13日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/1 移植 東山代町脇野	本年値	77.4	438	11.2	40.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は、平年よりやや高い</li> <li>・莖数は、平年より多い</li> <li>・主稈出葉数は平年よりやや多い</li> <li>・葉色は平年より淡い</li> </ul>
	平年値	71.6	374	10.5	43.3	
	平年比	108	117	+0.7	-2.5	
ヒノヒカリ 6/20 移植 松浦町桃川	本年値	38.0	311	8.1	46.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は、平年より高い</li> <li>・莖数は、平年よりかなり多い</li> <li>・主稈出葉数は、平年より多い</li> <li>・葉色は平年より濃い</li> </ul>
	平年値	31.7	202	7.3	40.3	
	平年比	120	153	+0.8	+5.9	
たんぼの夢 6/16 移植 松浦町桃川	本年値	46.2	510	8.2	46.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草丈は、平年より高い</li> <li>・莖数は、平年よりかなり多い</li> <li>・主稈出葉数は、平年より少ない</li> <li>・葉色は、平年よりやや濃い</li> </ul>
	平年値	39.2	333	9.3	44.7	
	平年比	118	153	-1.1	+1.3	

（耕種概要）

※夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。

### 3 今後の管理

#### 1) 山間早植え水稻（5月上中旬移植）

- すでに穂孕期を迎えている。（5月16日移植-幼穂長 10mm程度 ※5/12時点）
- 穂孕期から穂揃期にかけては、イネの用水要求度が高い時期であるため水がきれることがないように圃場の水管理を徹底する。
- 梅雨が明け降雨は少ないものの不安定な天候が続いているため、「いもち病」などの発生に注意する。病斑が確認された場合は速やかに防除を実施する。

#### 2) 普通期水稻「夢しずく」

##### 【6月上旬移植】

- 幼穂形成期を迎えている。
- 中干しを終了し間断灌水に移行する。
- 幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、下の表を参照し穂肥を施用する。

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg / 10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
<b>73cm以下</b>	<b>3.0~3.5</b>	<b>38以下</b>	<b>20~18日前</b>	<b>2 mm</b>	<b>3.0</b>	<b>18 kg</b>
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73~79cm	3.0~3.5	34以下	20~18日前	2 mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し な い					

※ 草丈は幼穂の伸長程度より幼穂形成期（幼穂長1mm）を基点に、前後1日当たり1cm増減する。

※ 止葉が抽出し終わった後は施用しない。

※BB602の施用量は栽培ごよみに準じている。

##### 【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
  - ②葉色（群落・SPAD値）を測る。
  - ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
  - ④施用量が確認出来たら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ※穂肥が施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下（3.5以下）」になってからである。

##### 【6月中旬移植】

- 中干しの時期を迎えている。
- **有効茎（1株当たり20本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。**
- 中干しは約1週間、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。なお、中干しを強めにした圃場（手が入るほどの亀裂がある）では、一端通水し、ならしをしてから間断灌水に移行する。

### 3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- 分けつ期を迎えている。水管理は浅水管理とし、分けつ促進に努める。
- ガス対策として移植後15日、25日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。
- 移植後に湛水状態が保てず、除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草の発生が散見される。速やかに、中後期除草剤等による防除を徹底する。

### 4) 共通

#### ○病害虫防除

##### (いもち病)

- 7月5日までのBLASTAM情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では6月22日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された1週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。今後発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等で速やかに防除を行う。



いもち病進展型病斑

- 圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」の温床になるためすみやかに除去する。

##### (ウンカ類)

- 6/22~27にかけて118頭、7/5~11にかけて42頭のトビイロウンカの飛来が確認されている。
- 圃場の発生状況に十分注意し、次ページの発生予測図を参考にして防除時期を検討する。

#### 【振興センター、ウンカ類調査結果（25株はらい落とし）】

（調査日：7/13）

品種	地域	移植日	トビイロウンカ		セジロウンカ		ヒメトビウンカ	
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
夢しずく	二里	5/23	0	0	0	7	0	1
		6/9	0	0	0	0	0	0
	東山代	6/1	0	0	0	0	0	0
ヒノヒカリ	松浦	6/20	0	0	0	0	0	0
たんぼの夢	松浦	6/16	0	0	0	9	0	1

表1 イネウンカ類のトラップでの捕獲状況(2022年)

月	日	トビイロウンカ		セジロウンカ	
		佐賀県		佐賀県	
		佐賀市 ネットラップ	嬉野市 ライトラップ	佐賀市 ネットラップ	嬉野市 ライトラップ
6月	1日	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0
	4日	0	0	0	1
	5日	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0
	14日	0	0	0	1
	15日	0	0	0	1
	16日	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0
	19日	0	0	0	1
	20日	0	0	0	4
	21日	0	0	2	0
	22日	0	2	5	1
	23日	1	0	4	0
	24日	1	7	3	2
	25日		41		18
	26日	0	1	2	2
	27日	0	65	1	8
	28日	0	0	1	1
	29日	0	0	0	0
	30日	0	0	0	0

月	日	トビイロウンカ		セジロウンカ	
		佐賀県		佐賀県	
		佐賀市 ネットラップ	嬉野市 ライトラップ	佐賀市 ネットラップ	嬉野市 ライトラップ
7月	1日	0	0	0	0
	2日	-	0	-	0
	3日	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0
	5日	0	1	0	0
	6日	0	1	0	0
	7日	0	0	0	0
	8日	0	36	0	71
	9日	-	2	-	9
	10日	0	1	0	1
	11日	0	1	0	41
	12日				
	13日				
	14日				
	15日				
	16日				
	17日				
	18日				
	19日				
	20日				
	21日				
	22日				
	23日				
	24日				
	25日				
	26日				
	27日				
	28日				
	29日				
	30日				
	31日				

注)佐賀市のネットラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野市ライトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

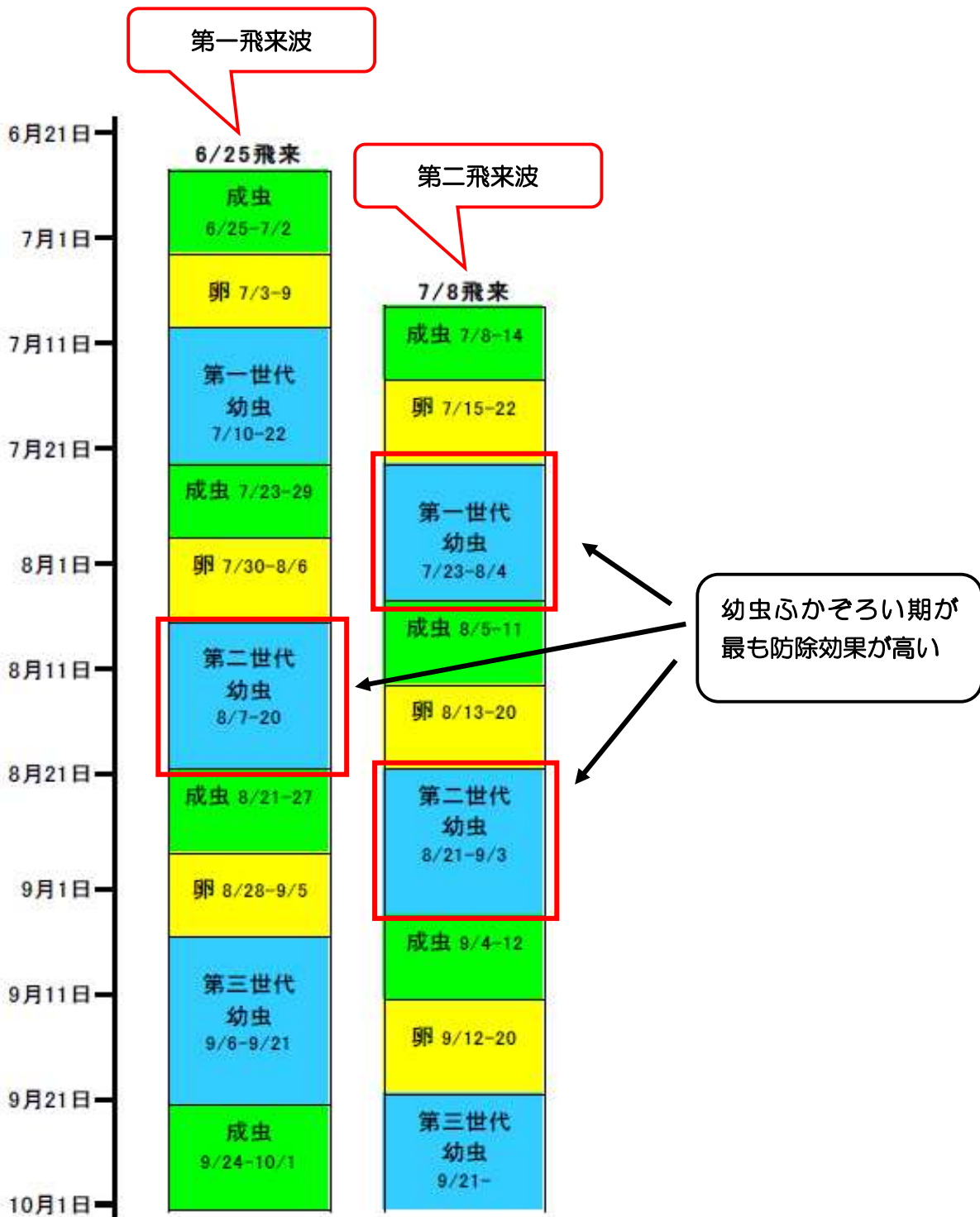


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第2版、2022年7月13日作成)

1. 6月23～25日頃(図では6月25日)、7月8日頃の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月13日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の飛来状況や気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

# 令和4年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：伊万里)

西松浦農業振興センター

